

○7番 安部愛依咲君

今元中学校2年、安部愛依咲です。まず、私は、行橋の人口減少の改善策について質問します。

近年、日本では少子高齢化が進んでいます。これは行橋市も例外ではありません。調べた結果、行橋市でも人口が緩やかに減っていることが分かりました。今は緩やかでも、そのうち大幅に減少する可能性があります。

そこで、行橋市内の小・中学校で、行橋市内の人口増加のための政策を考え、市の幹部に提案する、という行事をつくってほしいと考えました。なぜなら子どもたちが行橋市を知り、周りに伝えるきっかけになると思ったからです。

実際に私は、この子ども議員をするまで、行橋市の文化やソウルフードを余り知りませんでした。そして、子どもたちならではの政策を提案することで、行橋の地域活性化につながると考えたからです。

具体的には、対象の学校が約3年かけて総合の授業の取り組みとして、政策を考えてほしいです。また対象の学校は、様々な考えを見つけるために、政策を考える、約3年が終わるごとに替えてほしいです。また現在の若者世代はSNSをよく使っています。だから子どもたちの政策をSNSで発信することで、若者世代にも伝わると思いました。

そこで、若者世代を引き付けた政策を実際に行うことで、若者世代の行橋市への移住が増えると考えました。ご検討をよろしくお願いします。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

安部議員のご質問にお答えしたいと思います。人口減少は、行橋市にとっても喫緊の課題となっております。人口増加のための対策等、市に必要な政策を小・中学生が考え検討することは、社会参画を促進する意味でも大変重要であります。

市内の各学校は、地域や自校の特色に応じて総合的な学習の時間のカリキュラムを作成・実施しております。人口問題を学習に取り入れたいということであれば、前年度までにカリキュラムを変更しなければなりません。そこで、教育委員会としては、今元中にこのことをお伝えしますので、安部議員も今元中学校の先生にぜひとも御相談されてください。人口問題に関連した内容を扱った学習として、例えば社会科、あるいは理科、総合的な学習の時間で発展的に学習できる可能性があると思います。

また、その時間の中で考えた施策についてSNSで発信したいという点につきましては、学校で学習し、人口増加のための政策を考えてまとめた場合は、ぜひとも市の関係各課に提案してみるという方法も考えられますので、今後は検討してまいりたいと思ってお

ります。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○後半議長 渡部稜君

安部議員。

○7番 安部愛依咲君

前向きな回答を、ありがとうございました。次の質問に移ります。

次に、行橋の道路の改善について質問します。私たちは、歩いたり自転車をこいだりして登下校をしています。その中で、道路の白線が薄く、道を通りにくいと思うことがあります。他にもカーブミラーが見にくい、また無いことで曲がり角を通るときに危険を感じたことや、道路が狭く通りにくいと感じることがありました。だから人々の安全な登下校、通勤のために、市道の改善を検討してほしいです。

具体的には、白線の引き直し、カーブミラーの設置をしてほしいです。また狭い道路に関しては、時間規制を行ってほしいです。なぜなら登下校の時間に車を通れなくすることで、狭い道を安全に通れるようになると考えたからです。しかし、その場所に住む地域住民は通ってもよいことにしたいです。執行部は、どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

安部議員のご質問にお答えします。非常に具体的なお質問をいただきました。

まず、白線のことを区画線と呼ぶのですが、区画線の対応については、去年は市内の中で約4キロほど、区画線・白線の更新、つくり替えといいますか、そういったものを行っております。それから、カーブミラーにつきましては、角度調整などその場で調整や補修等できるものについては速やかに対応しておりますが、新たな設置や改修が必要な箇所につきましては、まずは、午前中も申し上げましたが、現地調査を行いまして工事の発注を行います。こういったカーブミラーの新設、これが約年間30箇所程度ございます。

それから、狭い道路などでございますが、確かに議員がおっしゃるように、登下校などの時間帯の時間規制をするというのは、一つのやり方としては大いに考えられると思います。実際にそういったことをやっている自治体もありますし、行橋市内でも例えば時間帯によっては一方通行にしたり、あるいは進入禁止にしている所なども実際にございます。

ただ、この辺につきましては、まず車が通らなければ通学路の安全が高まる有効な手段であると言えますが、時間規制することで、今度は通勤や仕事で車を利用する方のご賛同が得られるかということもございます。そこで、議員から地元の方などは通れるよう

にしてはどうか、ということなのですが、実際に道路というのはつながっておりまして、地元の方以外の出入りというのも、日ごろ使われているわけでもありますので、そういったところでの合意形成、皆さんのいろいろな意見も伺って、ある程度皆さんが納得いくかたちに持っていかなければなりません。

それから、そういったことを行うことによって、逆に別の所に車がいつてしまう、新たな問題が他の場所で起こってしまう可能性も考えられます。抜け道とかですね、そういったことがありますので、この辺につきましては、行橋警察署、県警のほうとしっかりといろいろな問題が起こりはしないかとか、そういったことを含めて協議をさせていただきながら考えさせていただきたいと思います。以上です。

○後半議長 渡部稜君

安部議員。

○7番 安部愛依咲君

白線やカーブミラーについては、パトロールや地元要望等で不具合箇所や要望箇所を把握し、設置や更新を行っていること、また道路の時間規制は警察が所管であり、通勤で道路を利用する人の合意形成など、ハードルが高いことが分かりました。

それでは、狭い道路で安全に通学できる対策が他にないのか、教えてください。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。最も安全な方法としましては、車道と分離された歩道が整備出来れば一番いいのですが、歩道整備には工事費のほか、道が狭い場合は実際に家に立ち退いていただいたり、あるいは道幅を広げるためにちょっと土地を譲っていただいたりしなければならないといった問題があります。これには時間とお金が掛かりまして、なかなか毎年整備をしていくのは、本当に少しずつだったり、あるいはなかなか整備ができないといった現状がございます。

その他の対策として、白線を道路の端のほうに引きまして、歩行者や自転車などが通行する路側帯と呼ばれる空間を確保する、そういったことで車と歩行者が通行する場所を分かりやすく分けるという方法があります。

後は通学路の場合ですと、例えばグリーンベルトというものを引くことによって、自動車を運転される方に、ここは通学路なんだということをより意識していただくということですね、これももちろんコスト、お金が掛かってくるわけですが、そういった方法も考えられます。以上です。

○後半議長 渡部稜君

安部議員。

○ 7 番 安部愛依咲君

ご答弁、ありがとうございました。以上で質問を終わります。